

2020年7月22日

報道関係各位

株式会社 DATAFLUCT

生産から出荷、流通、加工・販売、消費までの“青果物のサプライチェーン”を ビッグデータの活用によって垂直統合し、未来予測で最適化するサービス

『DATAFLUCT food supply chain.』を7月22日から提供開始

データサイエンスで企業の課題を解決する株式会社 DATAFLUCT（本社所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：久米村 隼人）は、青果分野における生産から出荷、流通、加工・販売、消費までを、ビッグデータの活用によって垂直統合し、未来予測によって最適化を実現するサプライチェーンの構築支援サービス『DATAFLUCT food supply chain.』（データフラクト フードサプライチェーン）の提供を、7月22日から開始します。

■ サービス開発の背景

【生鮮領域における単独での DX の難しさ】

現在、日本ではあらゆる産業において、業務効率化と新たなビジネスの創出を目指した DX（デジタルトランスフォーメーション）が進行しています。生鮮領域でも、サプライチェーン上での物流コストや在庫ロス、人件費の削減などの課題を解決するため DX の推進が求められていますが、もとより生産、出荷、流通、加工・販売、消費などの商流・物流が多岐に渡るため、生産管理や原材料の調達、在庫管理、販売を統合した計画は難しいといえるでしょう。

生鮮三品（青果、鮮魚、精肉）のなかでも、青果物は、物流におけるプレーヤーが多く、それらプレーヤーが小中規模ゆえに新しい仕組みを導入する難易度が高い分野です。また、青果物の価格変動が大きいため最適化が難しい、保管期間が短く在庫管理が容易でない、データが多岐に渡るため取得すべきものを見極めが困難などの理由により、サプライチェーンマネジメントの DX は進展していません。さらに、DX のためには、領域を横断しているデータを収集・整理する力、データを読み解く力、高度な分析をする開発力、それらをビジネスに活かす力が必要であり、1社単独で実行にうつすのは困難を極めます。

【“食のサプライチェーン”に特化した当社の DX 支援サービス】

当社は2019年1月の創業以来、“あらゆるデータを収集したデータレイク^{*1}を活用した「未来予測モデルの構築」に対するニーズ”に応えるため、多種多様なデータの収集・蓄積、クラウド上でのリアルタイムの分析・活用など、データに関するフルスタックのテクノロジーを駆使し、データ活用におけるクライアントのあらゆる課題を解決、ビジネスの創出を支えております。

なかでも、食のサプライチェーンを支援するサービスでは、農地の衛星画像や気象データ、価格データを AI で解析し、原料調達にかかわる収穫量や収穫日、市場取引価格を予測するサービス『DATAFLUCT agri.^{*2}』、店舗の POS データや気象・人流などの外部データの活用によって

精度の高い需要予測モデルを構築し、食品廃棄ロス削減に貢献する AI サービス『DATAFLUCT foodloss.※3』、売上管理や予約管理、発注手続きなど、サービス業における作業の自動化を補助するチャットボットサービス『DATAFLUCT intelligent.※4』を展開してまいりました。

『DATAFLUCT agri.』や『DATAFLUCT foodloss.』、『DATAFLUCT intelligent.』の開発経験に加え、オープンデータのほか、“当社がこれまで展開してきたサービスで蓄積されたデータ”と“異なる業種の企業内に留まったままのデータ”を組み合わせるデータレイク構築技術や知見などの活用により、青果物のサプライチェーンの DX 推進に貢献できると考え、新たに『DATAFLUCT food supply chain.』をサービスとして提供する運びとなりました。

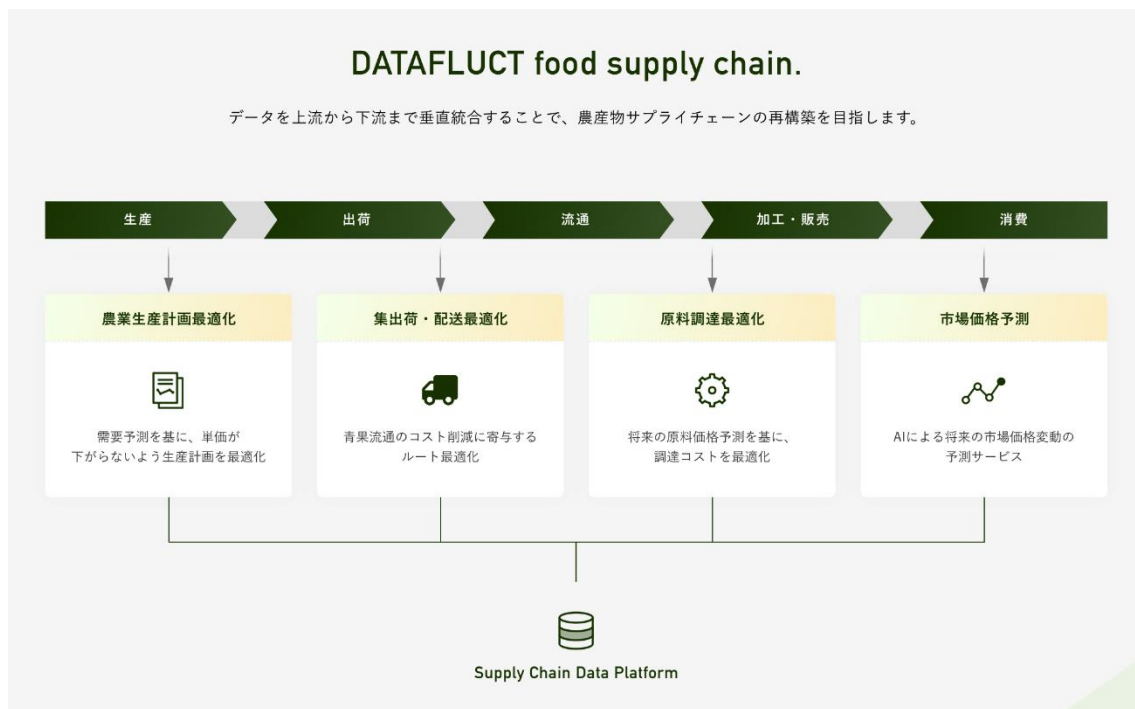
※1 構造化・非構造化問わず多種多様なデータを1つに集約し一元管理可能にしたデータ分析基盤

※2 <https://datafluct.com/service/agri/>

※3 <https://datafluct.com/service/foodloss/>

※4 <https://datafluct.com/service/intelligent/>

■ 『DATAFLUCT food supply chain.』について



このたび開始する『DATAFLUCT food supply chain.』は、分断して管理されている生産から出荷、流通、加工・販売、消費までの商流・物流におけるデータを垂直統合し、未来予測によって青果物のサプライチェーンの再構築を支援するサービスです。これにより、適切な範囲での生産量や在庫量の実現、ルートや調達コストの最適化を実現し、利益の最大化に貢献します。

【利用が想定されるサービス業態】

- ・ 青果物に関連するサプライチェーンに携わる企業・団体（農業生産組合、農業生産法人、食品メーカー、卸売業、スーパーマーケット、飲食店チェーン など）
- ・ とくに、青果物の仕入れや販売において、原価高騰や材料ロス、在庫管理に悩む企業・団体

【活用可能なデータ】

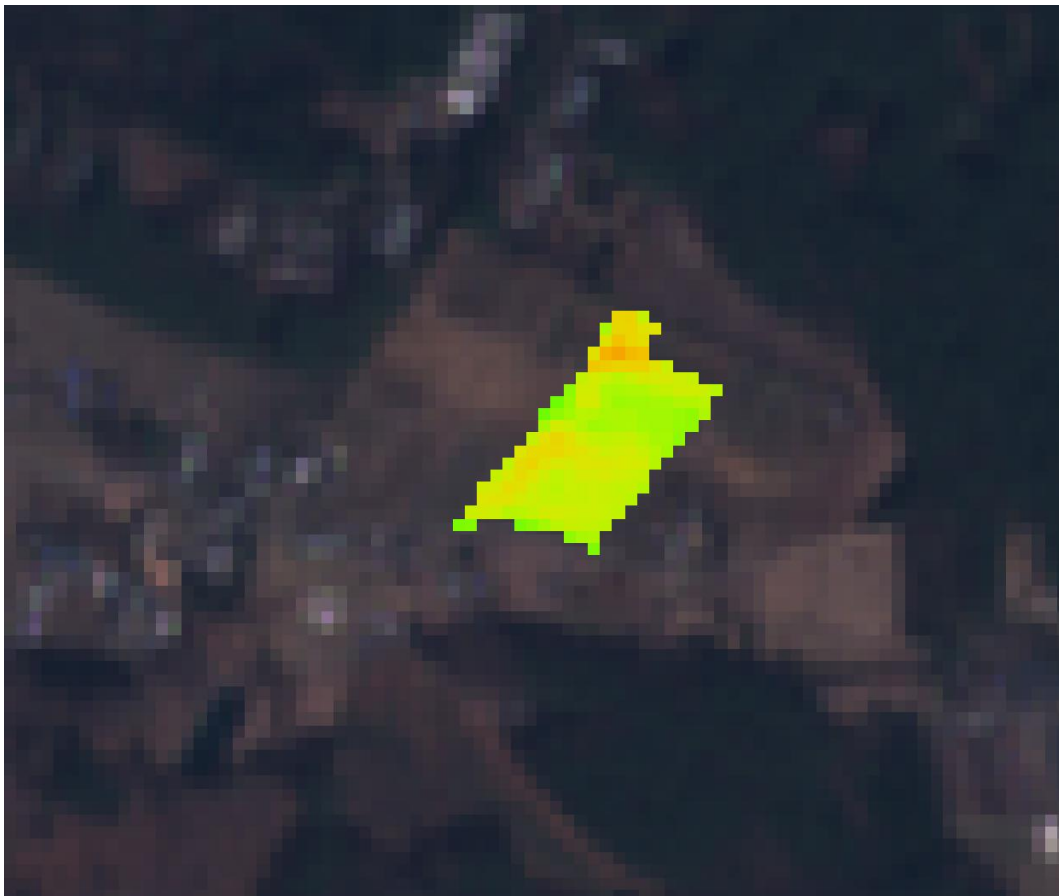
気象データ、衛星データ、主産地の生産計画データ、過去の生産計画データ、出荷履歴データ、入荷履歴データ、在庫データ、市場取引価格データ、輸入量データ、道路状況データ、配送履歴データ、トラック GPS データ、人流データ、SNS データ、POS データ など

【活用事例】

『DATAFLUCT food supply chain.』では、下記のような企業の課題の解決を一気通貫で支援します。

事例 1. 最適な生産量を予測できず、生産する青果物の単価が下がってしまう

気象データや衛星データ、過去の生産計画データ、出荷履歴データ、市場取引価格データ、POS データなどを用いて青果物の需要を予測。最適な単価となるような生産計画に寄与します。



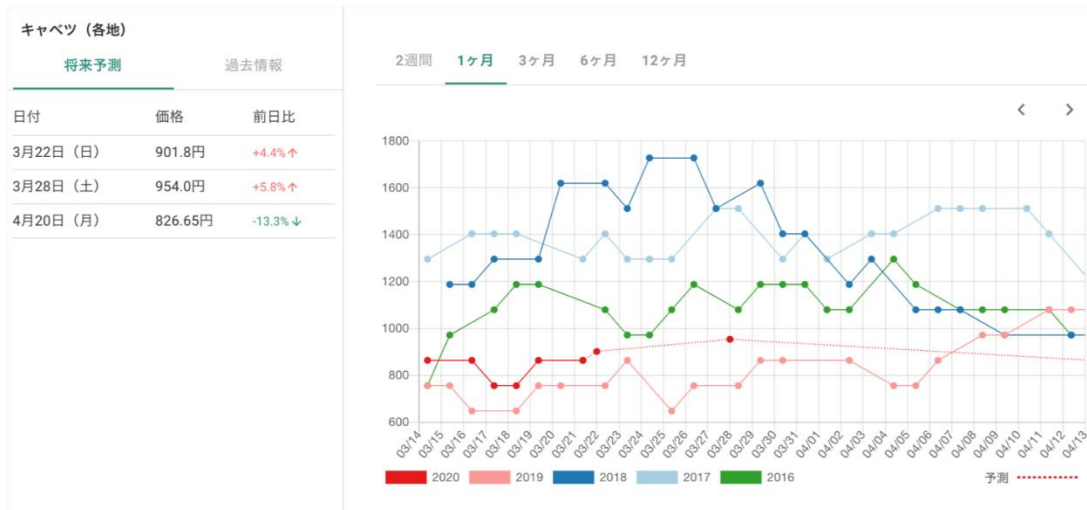
活用データのひとつ「衛星データ」による撮影画像を解析した
キャベツ圃場の生育状態ヒートマップ

事例 2. 集出荷・配送に関する最適な車両規模やルートがわからず、流通コストがかかる

道路状況データや出荷履歴データ、配送履歴データ、市場取引価格データ、トラック GPS データなどを用いて車両の規模や配送ルートを見直し、流通コストを最適化します。

事例 3. 原料の調達に必要な最適な価格や青果物の将来の市場価格を知りたい

気象データ、主産地の生産計画データ、衛星データ、入荷履歴データ、市場取引価格データ、輸入量データ、主産地の生産計画データ、POS データ、在庫データなどを用いて、原料の調達に必要な最適な価格や将来の市場価格の変動を AI で予測します。



AIによるキャベツの市場価格予測のグラフ (ツール使用時のイメージ図)

事例 4. 発注作業に時間がかかり、人件費が上がる

POS データ、人流データ、SNS データ、気象データなどを用いて飲食店の需要を予測。それらを反映させたチャットボットを利用して、発注を自動化します。



『DATAFLUCT intelligent.』の仕組みを活用
(スマートフォン内の画像は『DATAFLUCT intelligent.』のものです)

【WEB サイト】

<https://datafluct.com/service/agri/>

<株式会社 DATAFLUCT について>

データとサイエンスの力で社会と事業の課題を解決するデータサイエンス・スタートアップスタジオです。あらゆる業界・業種の枠を超えたパートナーとの共創による複数の SaaS ビジネスの素早い立ち上げや企業の DX 支援など、埋もれているデータから社会・経済・技術に大きなインパクトを与える、新たなビジネス価値を生み出します。(2019 年 JAXA ベンチャー認定企業^{※5})

※5 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の知的財産・業務での知見を利用して事業を行う、JAXA 職員が出資・設立したベンチャー企業

<企業概要>

| | |
|----------|---|
| 本社所在地 | 東京都千代田区麹町 1-4-4 2F Lifull hub 内 |
| 代表者 | 代表取締役 久米村 隼人 |
| 設立 | 2019 年 1 月 29 日 |
| 資本金 | 5,800 万円 (資本金準備金含む) |
| 事業内容 | Data Business SaaS の展開、企業の DX 支援 |
| WEB サイト | https://datafluct.com/ |
| Twitter | https://twitter.com/datafluct |
| Facebook | https://www.facebook.com/datafluct/ |
| note | https://note.datafluct.jp/ |

サービスに関するお問い合わせ

株式会社 DATAFLUCT DATAFLUCT food supply chain. 責任者 野秋 Mail : info@datafluct.com